

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

山口県 光市

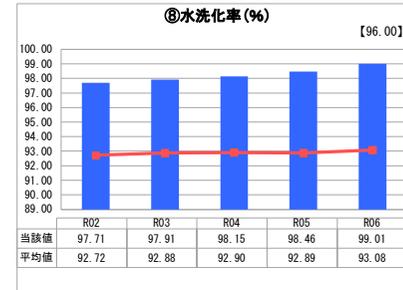
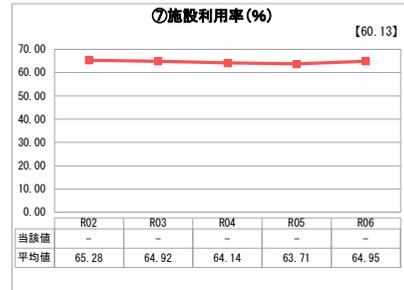
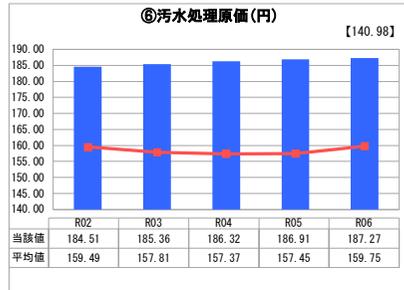
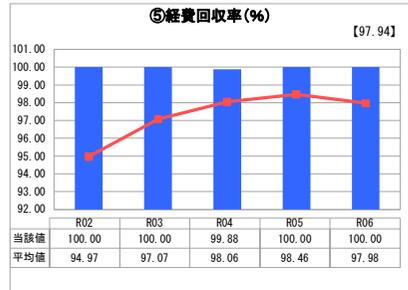
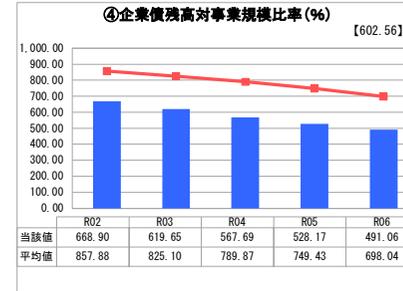
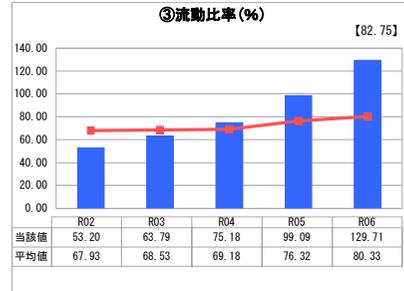
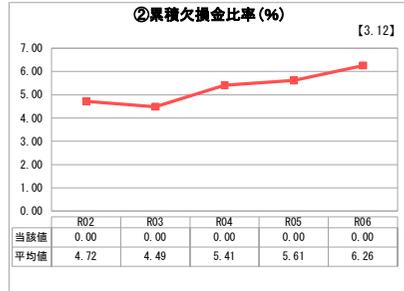
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Bd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)
-	77.75	82.41	89.33	3,630

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
48,015	92.13	521.17
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
39,259	9.92	3,957.56

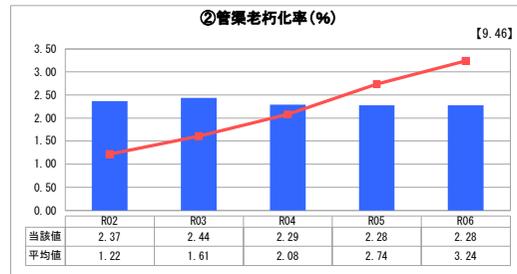
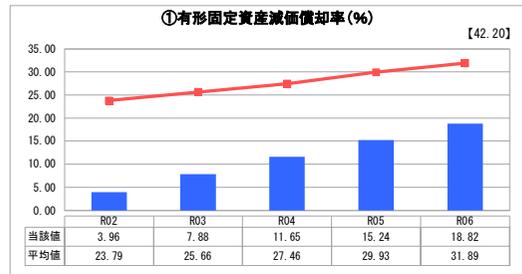
**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率は100%以上であり、経営の健全性は確保されている。
- ② 累積欠損金は生じていない。
- ③ 流動比率については、類似団体平均値を上回っており、100%を超えることから、一定の支払い能力を有しているものと考えている。
- ④ 企業債残高対事業規模比率について、企業債の償還が進んだことや、更新時期が未到前の施設が大部分を占めていることにより、更新事業費が抑制され、企業債新規借入額が縮小し企業債残高が少なくなったため類似団体平均値を下回っている。
- ⑤ 経費回収率は100%であり、使用料で回収すべき経費について使用料で賄うことが出来ている。
- ⑥ 汚水処理原価は、類似団体平均よりも高い水準となっており、今後も引き続き経費の節減に取り組む必要がある。
- ⑦ 施設利用率は、本市では終末処理場を有していないことから該当しない。
- ⑧ 水洗化率については類似団体平均を上回っており、引き続き処理区域内の接続を促進していく。

### 2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率は、類似団体平均と比べ低い水準となっているが、これは令和2年度より公営企業会計に移行したため、それ以前の資産の減価償却累計額が反映されていないことによるものである。
- ② 管渠の多くは昭和50年代以降に布設されており、耐用年数を経過したものは少ないが、計画的に調査を実施するなど、状態監視保全による管理に取り組んでいる。
- ③ 管渠改善率については、ストックマネジメント計画に基づいて改善を実施しており、引き続き、計画的に管理を行っていく。

## 全体総括

本市は令和2年度より公営企業会計に移行している。経営状況については損益収支において黒字となっており、当面は現在の収支均衡が継続できる見込みである。一方で今後、施設の老朽化に伴う多額の更新・改築費用を賄うための財源確保が必要となるため、経営戦略及びストックマネジメント計画を基に、投資費用の平準化を図り、持続可能な事業経営を行っていく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。